

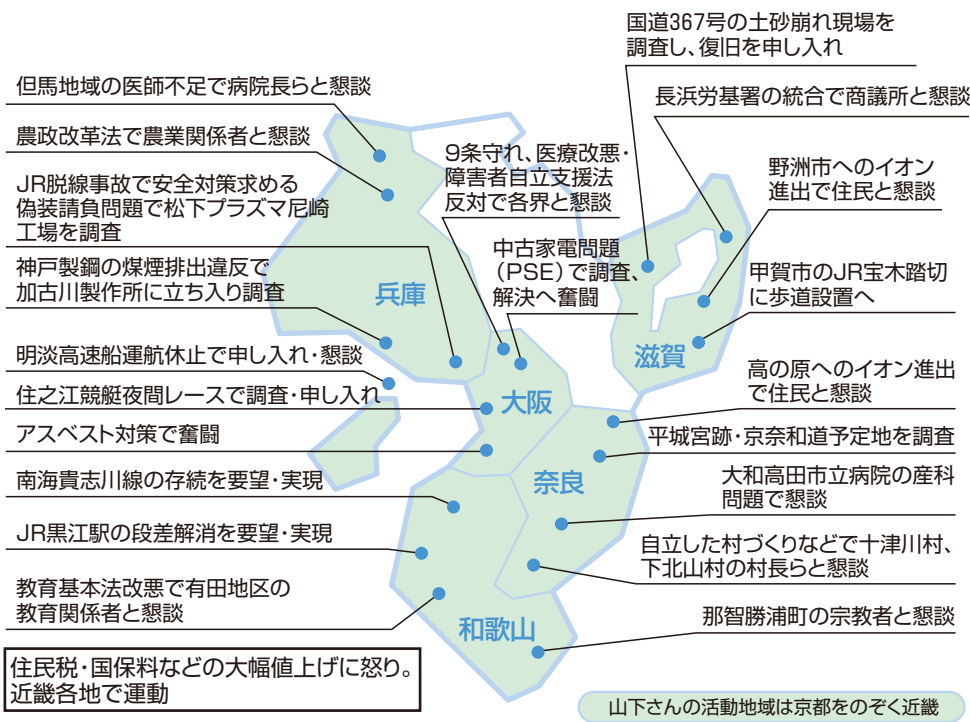
くらし・平和をまもるたしかな野党 **日本共産党**



中古家電問題で調査(大阪)



医師不足で懇談(兵庫)



山下 要求あるところ 行動力抜群

阪神・淡路大震災が国会活動の原点

山下さんの初当選は、阪神・淡路大震災の半年後。当時、道路や港はほとんど復興するのに、被災者個人の生活再建は置いてきぼりという状態でした。

山下さんは、「政府がやらないなら、自分たちで法案をつくらう」と被災者や作家の小田実さんたちとともに運動。超党派の国会議員の勉強会を立ち上げ、被災者生活再建支援法案（全壊世帯に最高500万円支給）を参議院に提出しました。これが世論を高め、政府・与党を動かして、被災者の生活再建にたいする公的支援に道を開きました。

質問114回 若き参院国対委員長として奮闘



山下さんの国会での質問・発言は114回に及びます。首相に「弱いものいじめの消費税増税はやめよ」と真正面から迫る論戦や、大型店の出店規制の緩和は「世界の流れに逆行する」と対案を提案するなど、国民の目線で政府を追及しました。

38歳で参院国対委員長となり、議員団（当時23人）の若き大黒柱として奮闘。自民党が参議院の選挙制度を突然変えようとしたとき、山下さんは本会議で原稿なしの33分の大演説（写真、2000年10月）。他議員から「うちの党に来てくれ」という声も。



教育基本法改悪で懇談(和歌山)



平城宮跡を調査(奈良)



集配局廃止で郵政公社に申し入れ(滋賀)

原点 「おばあちゃんの二つの教え」

山下さんにはおばあちゃんの二つの教えがありました。「人の役に立つ人間になれ」と「共産党にはなつたらいかん」です。

しかし、日本共産党が侵略戦争に命がけて反対したことを知り、大きな衝撃を受け、「どんなに困難でも、信念を貫くことが、人の役に立つ生き方ではないのか」と日本共産党に入党。

仏壇の前で手を合わせるときには、「あなたの教え、一つは守りました。一つは乗り越えました」と報告しています。